

様式(細則 6-2)

令和6年12月26日

浜田市議会議長 様

議員名 牛 尾 昭

## 研 修 受 講 報 告 書

下記のとおり研修を受講したので報告します。

### 記

1. 研修名

世界最先端の農業をイスラエルの実践に学ぶ

2. 受講の目的 (市政との関連など)

農家新卒の向上。

3. 期間 (移動日を含む)

令和6年12月12日(木) ~ 令和6年12月13日(木)

4. 経費

1000 円

(経費内訳 受講料 1000 円、旅費 0 円)

5. 研修のポイント・議員活動や市政への反映など

小規模農業の生きる道への指針を学ぶ。

6. 研修内容

(詳細は別紙のとおり)



## 世界最先端の農業をイスラエルの実践に学ぶ

日 時：令和6年12月12日（木） 19：00～21：00（オンライン）

主 催：スマート・テロワール協会

講 師：浅川芳裕氏：エルサレムよりガザの農場従事者

進 行：藻谷浩介氏：日本総研上席研究員

### ●現地からのレポート ～戦時下のイスラエル

➤テルアビブまで1時間 ～イスラエルとの関わり～

\*反イスラエルの国は7ヶ国。

\*ミサイル1.2万発撃ちこまれたが殆ど撃ち落とす

- ・12月11日新聞報道→シリア軍は壊滅したと報道
- ・イスラエルには、人口の数倍のシェルターがある
- ・園芸用の200～300のテントをガザのパレスチナ人に譲る
- ・園芸用パイプでハマスがミサイルをつくる

\*ハマスが攻撃・殺戮したコミュニティーは22ヶ所

- ・農家虐殺で収穫不能の農園
- ・世界からイスラエル人のボランティアが入植
- ・町は破壊されてブロークンだがガザの農地は大丈夫
- ・ガザはほとんど農地である

\*過去15回戦争を始めたのはアラブ諸国

- ・イスラエルの15勝に終わっている

\*日本とイスラエルのGDP比較

- ・2016年に日本を上回り、戦争中も成長している
- ・ネタニヤフもビックリ、日本を抜いてしまった  
現在初任給は40万円、平均年収は1千万円である

\*イスラエルの農業は施設園芸

- ① 点滴灌漑システム
- ② オーガニック／現状保全型農業
- ③ 酪農 養鶏・養殖
- ④ AI、ロボットを生かした農産物生産

\*イスラエルの4つの地形

- ① 湾岸平野
- ② 中央丘陵
- ③ ヨルダン地溝帯
- ④ ネケブ砂漠

\*国土の半分が砂漠である。

- ・イスラエル…農業者 1.2 万人、平均耕作(53ha)、法人の生産高(1 億円)
- ・日本… 農業者 122 万人、平均耕作(3.8ha)、法人の生産高(900 万円)

➤農業の技術水準と付加価値が飛躍的に向上

- \*イスラエルの農業者人口は右肩上がり → パレスチナから入植  
日本は、逆に減っている
- \*イスラエルの新農地開発  
ネゲブ高原の 20%を振興農地  
農地が倍増 → 今後、イスラエル農業はさらなる成長をする
- \*イスラエルの点滴灌水
  - ・砂漠ハウスの中でトマト → 一段と糖度のバランスがいい
  - ・「デザートスイーツ」 砂漠のお菓子
  - ・ハウスの溶液を再利用したハーブ栽培など
- \*イスラエル農業は成長の途上である
- \*農業を産業として全プロセスを統合
- \*生産の最適解を見出す → ヘブライ大学

**考察**

水の乏しいイスラエルの農業は、米豪加などの大規模粗放農業とは真逆の、集約型の施設農業である。日本は農地が狭いので生産性が低いと言われているが、イスラエルの農業生産高は、一人当たり 2,500 万円、日本の 6 倍以上ある。

適正な管理でコストを下げ、品質を良くし、歩留まりを上げ、高品質の農産物を高価格で売る。こうした努力の中で、世界最先端技術が培われ、途上国の食料増産に役立っている。

振り返って見るとき、令和の米騒動が起き米価が高止まりの今日、戦争と農業生産は別ものとして、世界のトップランナーのイスラエルの農業に学ぶべきと考える。

浅川芳裕氏を講師に招き勉強会をすべきと考える。

以上報告します。

牛尾 昭